

科目名	コミュニケーション特論			分野・必選別・単位数	基礎科目	必修	2単位
担当教員	◎講師(非) 橋本章子					科目ナンバー	T5B105
課程	修士	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義
授業の概要	救命救護の現場では、傷病者をはじめ、その関係者や搬送先の医療関係者、それを取り巻くメディアなど多種多様な職種・立場の人が行き交う。またCOVID-19に観る想定外の状況では、臨機応変で適確な対応が要求される。当特論では、コミュニケーションの多様な理論を学ぶと共に、エビデンスにみる救命救護現場の活動を議論しながら、想定外の出来事に対応できるコミュニケーション能力の向上と医療者に必須な健康的メンタライズ能力の向上を目指す。						
授業の到達目標	柔軟でしなやかなコミュニケーション能力と、精神的健康度は相補的に機能する。本特論では、まずは精神衛生向上に不可欠なトレーニングを行う。その上で、救命救護の多様な場面を先行研究を活用して想定し、実践可能性を議論し、状況を選ばず、職種を問わず、立場に関わりなく、出会う人々がチームとして機能できる心が伝わるコミュニケーションの本質を説明できることを目指す。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	橋本 章子	講師(非)	<コミュニケーションの基礎①> 良好な対人関係は、深い自己理解が支える。心理学や精神医学は、自身についての未知の特性や、意識されない無意識に気づける重要性を指摘する。社会に貢献する救命士として自分は何のような人物か仲間と共有し語れる。KW: ジョハリの窓、無意識			
	2	橋本 章子	講師(非)	<コミュニケーション学の基礎②> 信頼関係は、心を拓いた率直なコミュニケーションの下に構築される。心を捉えるコミュニケーションの本質とは何か納得し、説明できる。KW: 傾聴、共感			
	3	橋本 章子	講師(非)	<精神修養法《内観》体験①> 自分史を振り返り、医療人として生きることを決めたエピソードとモチベーションを説明できる。KW: 心身相関、内観法			
	4	橋本 章子	講師(非)	<コミュニケーションの基礎③> 人の表情は環境情報の発信機能でもある。一方で《顔で笑って心で泣く》では内面の感情と周辺で認知される情報は不一致である。コミュニケーション機能の可能性と限界を考え、コミュニケーションのあるべき形について議論し語れる。KW: 協調原則、認知、感情			
	5	橋本 章子	講師(非)	<病院前救急救護コミュニケーションのあり方①> 傷病者・救護者間のコミュニケーションの一般的なあり方と、COVID-19のような未曾有の状況に対応できる救急救護の姿勢を語れる。			
	6	橋本 章子	講師(非)	<病院前救急救護コミュニケーションのあり方②> 病院前救急救護現場における高齢者、乳児、精神疾患(認知症、アルコール中毒)、暴力的行為、ホームレス等の傷病者や家族との関係において留意すべき心得について理解し説明できる。			
	7	橋本 章子	講師(非)	<病院前救急救護コミュニケーションのあり方③> 病院前救急救護現場における傷病者の意識状態や、感情・情動の混乱の程度による救護姿勢で必要な対応を説明できる。			
	8	橋本 章子	講師(非)	<精神修養法《内観》体験②> 自身の人生史を内観し、自己受容と他者受容の本質を体感して生きる意味を語り説明できる。			
	9	橋本 章子	講師(非)	<119番通報時等のブラインドコミュニケー①> 119番通報時の口頭指導や携帯電話での医療情報収集など、緊迫した傷病者等とのブラインドコミュニケーションの具体的なコミュニケーションの特長について説明できる。			
	10	橋本 章子	講師(非)	<119番通報時等のブラインドコミュニケーションのあり方①> 119番通報時の口頭指導や携帯電話での医療情報収集など、緊迫した傷病者等とのブラインドコミュニケーションの具体的なコミュニケーションの特長について説明できる。			
	11	橋本 章子	講師(非)	<広聴対応のコミュニケーション①> 病院前救急救護活動のクレーム対応やコミュニケーション技法について理解し説明できる。KW: クレーム対応、メタコミュニケーション、転移、逆転移、ノンバーバルコミュニケーション			
	12	橋本 章子	講師(非)	<広聴対応のコミュニケーション②> 病院前救急救護活動のクレームに関わるコミュニケーションの特長について説明できる。			
	13	橋本 章子	講師(非)	<病院前救急救護コミュニケーションの評価と実証研究を探る> 病院前救急救護コミュニケーションの評価法について実証研究を基に説明できる。			
	14	橋本 章子	講師(非)	<メディアや行政上の折衝に関わるコミュニケーション> 行政関係者及び医療従事者との折衝におけるコミュニケーションの特長や、マスメディアの役割と活用法について社会貢献という観点に立ち説明できる。KW: 社会貢献			
	15	橋本 章子	講師(非)	<コミュニケーション特論のまとめ> 病院前救急救護現場において、尊重すべき姿勢と今後の展望について語る事ができる。KW: サステイナビリティ			
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	次回の授業内容に関して、事前に研究しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、参考書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	随時、指示する。						
参考書	「救急活動コミュニケーションスキル 何を聞く?何を伝える?」坂本哲也 畑中哲生 松本 尚 Medical Science 「高齢者とのコミュニケーション」野村豊子著 中央法規出版 「精神科看護のコミュニケーション技術」平澤 久一著 日総研						
成績評価の方法および基準	講義ごとのレポート100%						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDPIが、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						